

千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第36週 (9/2-9/8) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	36週	35週	34週	33週
小児科	16	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	26	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	9/2-9/8	8/26-9/1	8/19-8/25	8/12-8/18	8/26-9/1
			36週	35週	34週	33週	35週
小児科	RSウイルス感染症	○	29 1.81	25 1.39	20 1.11	16 0.89	239 1.77
	咽頭結膜熱	↓	11 0.69	13 0.72	1 0.06	4 0.22	38 0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		29 1.81	27 1.50	22 1.22	5 0.28	197 1.46
	感染性胃腸炎		62 3.88	49 2.72	52 2.89	27 1.50	323 2.39
	水痘		4 0.25	2 0.11	3 0.17	2 0.11	27 0.20
	手足口病	○	67 4.19	47 2.61	61 3.39	34 1.89	285 2.11
	伝染性紅斑		7 0.44	7 0.39	6 0.33	5 0.28	84 0.62
	突発性発しん		9 0.56	8 0.44	14 0.78	5 0.28	49 0.36
	ヘルパンギーナ		22 1.38	16 0.89	12 0.67	6 0.33	115 0.85
	流行性耳下腺炎		1 0.06	0 0.00	2 0.11	1 0.06	12 0.09
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	32 1.23	2 0.07	3 0.11	1 0.04	64 0.30
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎	○	13 2.60	9 1.80	8 1.60	5 1.00	30 0.88
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	10歳未満	臨床診断	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
結核	男性	50歳代	髄液ADA値の上昇等	梅毒	女性	60歳代	血清抗体の検出
結核	女性	50歳代	IGRA検査	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	男性	10歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	百日咳	女性	60歳代	病原体遺伝子の検出

*第36週は、結核3件(130)、腸管出血性大腸菌感染症1件(12)、急性脳炎1件(10)、梅毒2件(26)、百日咳4件(115)の報告があった。

※ ()内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

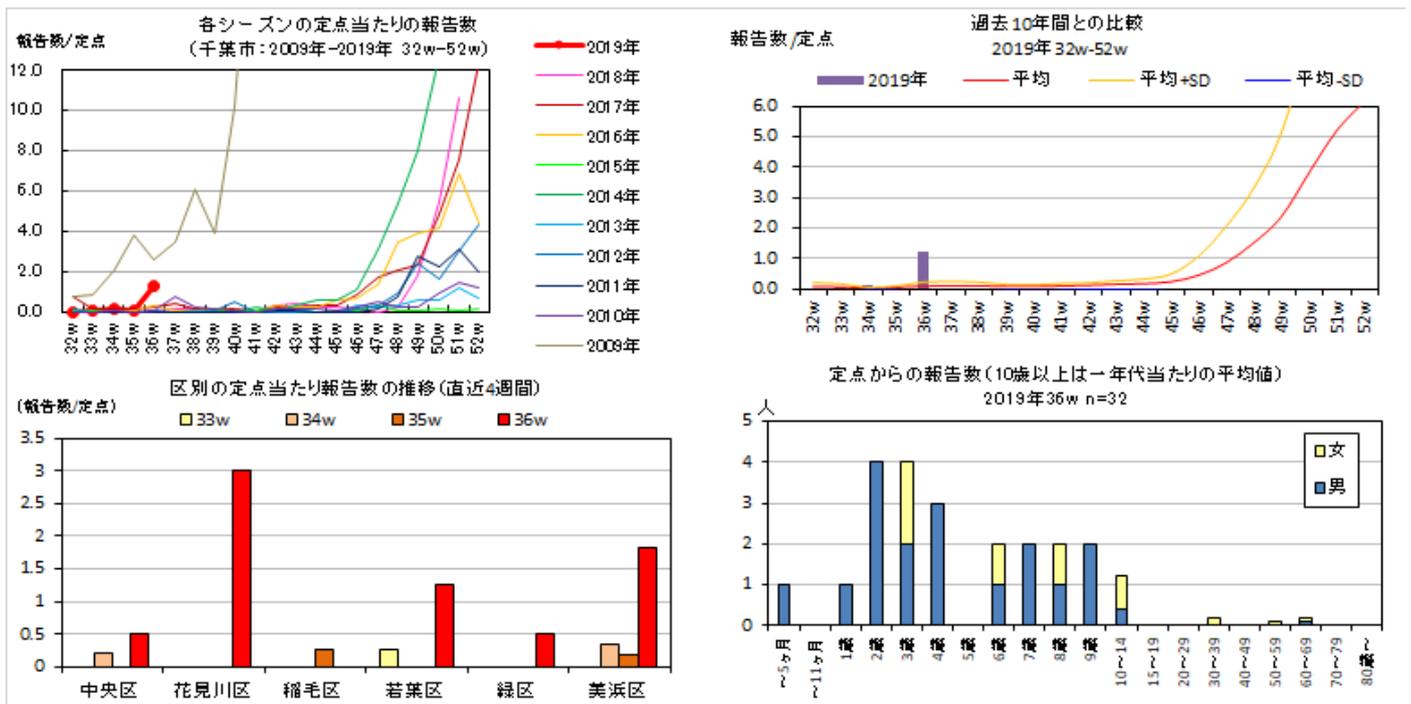
定点当たり報告数 第36週のコメント

- <インフルエンザ> 前週より急激に増加し1.23となり、流行開始の目安とされている1.00を上回った。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除いて最多。
- <RSウイルス感染症> 前週より更に増加し1.81となった。過去10年の同時期と比べると最多。
- <咽頭結膜熱> 前週より若干減少し0.69となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。
- <手足口病> 前週より増加し4.19となり、流行発生警報開始基準値に近付いた。過去10年の同時期と比べると多め。
- <流行性角結膜炎> 前週より更に増加し2.60となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

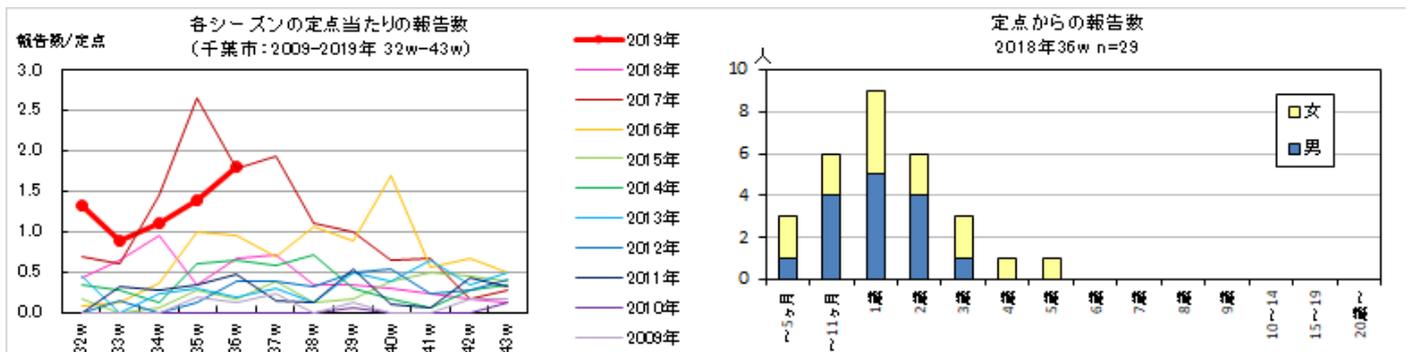
<インフルエンザ>

全国レベルの第35週の定点当たりの報告数は0.39で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では沖縄県、和歌山県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.30で、全国レベルとほぼ同等レベルとなっています。千葉市の第36週は前週より急激に増加し1.23となり、流行開始の目安とされている1.00を上回り、これは例年の発生動向より12週も早くなっています。過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多となっています。区別の発生状況は、花見川区(3.00/定点)で最多で、同区の10歳代前半で最も多く、一年代当たりでは7歳及び9歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週の報告数は32件で、性別では男性が62.5%(20名)、女性が37.5%(12名)となっており、年齢階級別では2歳及び3歳(共に12.5%:4名)、4歳(9.4%:3名)の順で多くなっています。



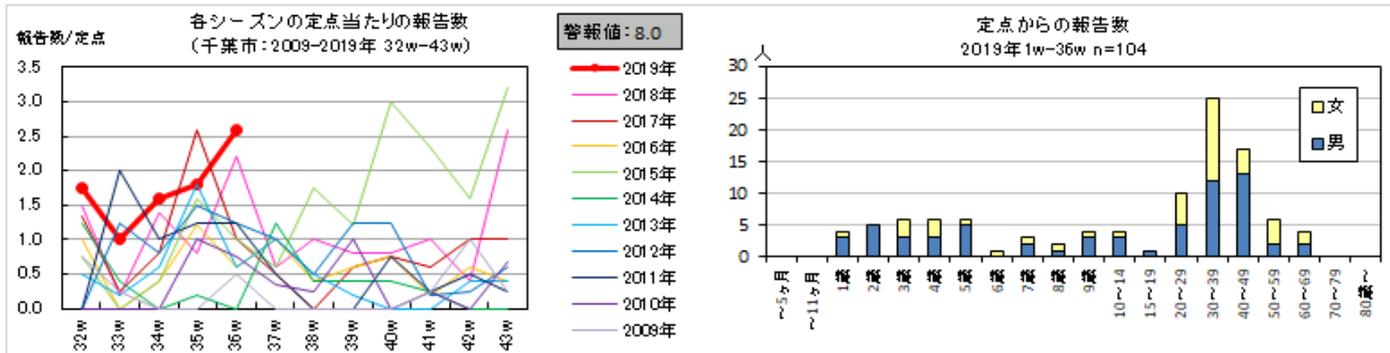
<RSウイルス感染症>

全国レベルの第35週の定点当たりの報告数は2.43で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮崎県、長崎県、山形県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.77で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第36週は前週より更に増加し1.81となり、過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況は、緑区(4.00/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週の報告数は29件で、性別では男性が51.7%(15名)、女性が48.3%(14名)となっており、年齢階級別では1歳(31.0%:9名)、6-11か月及び2歳(共に20.7%:6名)の順で多くなっています。



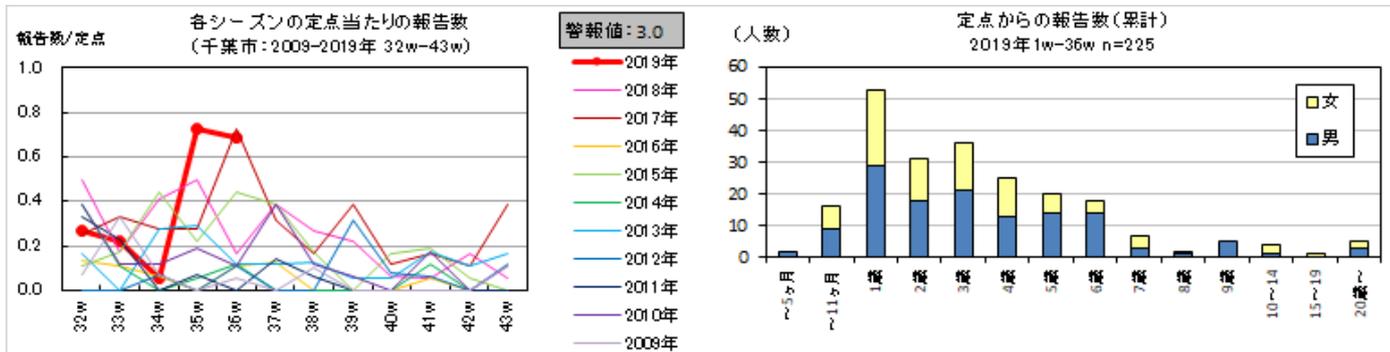
<流行性角結膜炎>

全国レベルの第35週の定点当たりの報告数は0.79で、過去10年の同時期と比べるとやや少なめとなっています。都道府県別では熊本県、鹿児島県、佐賀県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.88で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第36週は前週より更に増加し2.60となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は、美浜区(11.0/定点)で流行発生警報開始基準値(8.0/定点)を上回り最多で、同区の10歳未満が増加し4歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第36週までの累積報告数は104件で、性別では男性が60.4%(63名)、女性が35.4%(41名)となっており、年齢階級別では30歳代(24.0%:25名)、40歳代(16.3%:17名)、20歳代(9.6%:10名)の順で多くなっています。



<咽頭結膜熱>

全国レベルの第35週の定点当たりの報告数は0.43で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では沖縄県、高知県、宮崎県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.28で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第36週は前週より若干減少し0.69となりましたが、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は、花見川区(2.0/定点)で最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。2019年第1週から第36週までの累積報告数は225件で、性別では男性が59.1%(133名)、女性が40.9%(92名)となっており、年齢階級別で1歳(23.6%:53名)、3歳(16.0%:36名)、2歳(13.8%:31名)の順で多くなっています。



<手足口病>

全国レベルの第35週の定点当たりの報告数は3.05で、過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルとなっています。都道府県別では北海道、山形県、長野県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は2.11で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市は第33週に流行発生警報終息基準値を下回った後第34週から増加に転じ、第36週は前週より増加し4.19となり、再び流行発生警報開始基準値(5.0/定点)に近づきました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。区別の発生状況は、若葉区(10.5/定点)で流行発生警報開始基準値を上回り最多で、同区の2歳で最も多く発生報告がありました。また、稲毛区(7.67/定点)でも流行発生警報開始基準値を上回っています。2019年第1週から第36週までの累積報告数は2269件で、性別では男性が54.2%(1229名)、女性が45.8%(1040名)となっており、年齢階級別で1歳(38.5%:873名)、2歳(22.0%:500名)、3歳(11.0%:249名)の順で多くなっています。

